

あさかわせんじょうちいせきぐん  
『浅川扇状地遺跡群』発掘調査現地説明会資料

（財）長野県文化振興事業団  
長野県埋蔵文化財センター

## 1. はじめに

長野県埋蔵文化財センターでは、県道高田若槻線の建設（長野建設事務所）に伴い、4月から浅川扇状地遺跡群の発掘調査を実施しております。9月の現地説明会では、おもに古墳時代から平安時代の竪穴住居跡や、南北方向に延びる中世の堀跡を見学していただきました。その後の調査で、9月には確認されていなかった、東西方向に延びる中世の堀跡が新たにみつかりました。本日の説明会では、中世の遺構（堀跡・井戸跡）を公開し、そこから出土した、中世の出土品（かわらけ・青磁・銭など）をご覧ください。

## 2. 説明会の見どころ

### 中世の<sup>やかたあと</sup>館跡を囲む堀

調査区西寄りに、幅約3m、深さ約1.5mの南北に直線的に延びる中世（鎌倉時代700～800年前）の堀跡がみつかりましたが、新たにその堀跡が調査区北西部で東の方向へ曲がっていることが分かりました。

このことから、みつかったこの堀跡は、調査地東側に位置するとされる中世の武士の館「高野（たかの）氏館跡《桐原要害（きりはらようがい）》」を囲む外堀であると思われます。

敷地内から、建物跡はみつかりませんが、直径約2mの井戸跡が1基みつかりました。また、堀跡には幅約2mの敷地内への出入り口部となる「土橋（どばし）」が確認されています。

出土品としては、堀跡や井戸跡から、13世紀後半（鎌倉時代）のかわらけ（土師質小皿）や青磁の破片がみつかりました。



中世の堀跡

### 3. 中世の武士の館<sup>やかた</sup>

中世（鎌倉時代）の武士の館とはどんなだったのでしょうか。今年度の調査では、建物の様子をうかがえる柱跡などがみつかっていないため、建物の規模や配置などは分かりませんが、同じような時期の館跡の発掘成果や、当時の絵巻物などから下図のようだったと考えられています。

館の敷地内には、主人やその家族が住む主屋（おもや）・厩（うまや）・倉庫・井戸などが配置されていたと思われます。そして、その周囲には堀をめぐらせ、館を敵から守っていたと思われます。

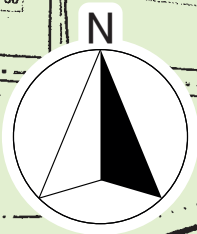


国立歴史民俗博物館「東国の武士の館」復元模型

<http://blog.goo.ne.jp/saikoroat/e/9a7c1d3d711a256f5af71d9e91ba17a3>

長野県埋蔵文化財センター  
〒388-8007 長野市篠ノ井布施高田963-4  
TEL(026)293-5926 FAX(026)293-8157  
E-mail info@naganomaibun.or.jp  
インターネット(最新の情報はこちらから)  
長野県埋蔵文化財センター    
<http://www.grn.janis.or.jp/~maibun/>





酒屋裏路切

長野電鉄長野線

桐原2丁目

長野市教育委員会の調査分

今回みつかった堀跡

井戸跡

桐原牧神社

桐原  
公民館

土橋

高野氏館跡  
(桐原要害)  
推定地

清林寺

一町(昔の長さ単位・約109m)

県道  
計画路線

この図は長野市住宅地図をベースにして、遺跡調査範囲と旧地形図(高野氏館跡)を重ね合わせて合成しました。

0 (1:1,000) 50m

浅川扇状地遺跡群の堀跡と高野氏館跡(桐原要害)推定地





堀跡

井戸跡

土橋

桐原牧神社

高野氏館跡  
(桐原要害)  
推定地

清林寺

一町(昔の長さ単位・約109m)

浅川扇状地遺跡群の堀跡と高野氏館跡(桐原要害)推定地